

地名由来

①八幡の地名由来

明治22年4月市制・町村制が試行され、保田村・川島村・森村・田黒村・菅村・受原村が合併し、川島の三草に村役場が置かれた。当時の戸数は526戸、本籍人口は2,802人であった。

村名については、八幡地区に川島八幡神社・保田八幡神社・受原八幡神社の3社があり、ことに川島八幡神社は川島村・森村・田殿村・菅村・田黒村・山中村・始終村・未渡村の八か村の大氏神と言われていたことから、これに因み『八幡村』と命名された。

②森の地名由来

森村に古来3本の古木があり、1本は飯山の頂上に二本樹と言われる櫟、1本は雲明という家の背後に榎、もう1本は宮本という家の背後の櫟である。この3本の木の所在が恰も森の文字のように、一つは山嶺にあり、他は山麓の左右にあり、森の名のいわれと言われる。

③川島の地名由来

昔、川島の大百姓の家に3人の娘がいた。中の娘が一番器量が良く、年頃ゆえ、隣村の奥の百姓から息子の嫁にと再三再四頼みに来て、後には人を介して是非ともと言う。日頃この大百姓は水に困っていたので、娘をやるからその代わりに水をくれないかと持ちかけた。隣村の百姓は、娘がほしいので思案の末、半分だけやることを約束した。毎年、干ばつに困っていた大百姓は、長い年月をかけてやっと田に水を引くことができた。その苦労を忘れないために、「川取り」という地名にしたとのことである。

④田黒の地名由来

森と田黒の境、次石と言うところの近くに平野上山という小高い山があり、その昔そこには、お城があったと言われている。このお城は、またの呼び名を「夏目城」といい、尼子方の砦で、黒田兵衛是保という武将が守っていたと言われている。この是保は、田黒の開拓にも力を入れたと言われ、田黒の地名も黒田をさかさまにして田黒となったとのことである。なお、この夏目城は、毛利方によって落城したと言われている。